

シミンのジリツを支援するNPO法人

シミンズシーズ

年次報告書 2023



／ 組織体制を一新！
／ 次のステージへ

2023 年度 総括

2023 年度は NPO 法人シミンスシーズ（以下、当法人）にとって次の 10 年を方向付ける重要な 1 年になりました。この 1 年、「市民参加型まちづくり」「まち保育」「伴走型組織支援」の 3 つをキーワードに、当法人の次の 10 年の礎をつくっていきこうとスタートし、3 部門体制で進めてきました。その中で今後の法人運営につながる視点が見えてきました。

1 つ目の「市民参加型まちづくり」は、これまで 5 期・15 年間指定管理運営をしている兵庫県立東播磨生活創造センター「かこむ」(以下、「かこむ」)を市民参加型で運営していくことに留まらず、そのノウハウを地域に広げ、まちづくりにつなげていくために、まずはスタッフが地域に出ていくことを意識してこの 1 年取り組んできました。株式会社加古川まちづくり舎と連携しながら、加古川市じけまち商店街をフィールドとした「かわのまちマーケット」の取り組みや、加古川市の「みとろフルーツパーク再整備支援」では、「かこむ」で培ってきた市民参加のノウハウを活かして支援に取り組みました。このような市民参加のプロセス設計や企画コーディネートが、これからのまちづくりに必要なものであると感じることができました。

2 つ目の「まち保育」という点においては、3 年目を迎えた企業主導型保育園「かわのまちほいくえん（以下、当園）」運営の中で、「まちの人と毎日をつくる保育園」という保育理念の定着とその深まりを実感することができました。この 1 年、園を訪れ子どもたちに学びを提供してくれたまちの先生は延べ 200 人にのぼります。当園なりの「まち保育」のイメージが保育士をはじめ、園児、保護者、まちの人とも共有できつつあり、そういったみなさんの声や提案によって園の活動が作られていくことが中心になってきました。地域の子どもや保護者、まちの人たちがつながっていく子どもを核としたまちのプラットフォームになっていくことを当初から念頭に置いていましたが、ここまでの園運営の積み重ねによって想定より早く、園外に「まち保育」を展開していける段階にすることができています。

3 つ目の「伴走型組織支援」では、コロナ禍で普及したオンラインツールにより、全国の NPO との距離が縮まり、東播磨に留まらない支援が可能になっています。特に当法人がこれまで取り組んできたチームブランディング（理念構築を起点にしたチームづくりを兼ねたブランドづくり）は全国からの依頼もあり、オンラインによるワーク設計にも対応できるようになりました。その分、高い専門性がさらに求められているということも実感しています。

これらの各部門の動きを踏まえて、年度の後半には正規スタッフの中心メンバーが集まり、今後の方針を検討していく「戦略会議」を行いました。当法人の強みやどのような地域像を描くのかなど、さまざま議論を重ね、現場の視点から今後の方向性が紡ぎだせたことは大きな成果であったと感じています。その議論の中で、改めて当法人のスタッフ全員が人と人をつなぎ、コミュニティを作っていくコミュニティ・コーディネーターであることを確認しました。

「かこむ」と「かわのまちほいくえん」という 2 つの拠点を生かしつつ、コミュニティ・コーディネーターという強みを生かして、今後さらなる外への広がり力を入れていきます。

NPO 法人シミンスシーズ

2023 年度活動報告



もくじ

P.01 総括

P.03 シーズについて

P.04 ハイライト

P.05 事業報告…まちづくり部門

P.12 事業報告…まちまなび部門

P.15 事業報告…組織支援部門

P.19 法人運営

P.20 講師派遣一覧

P.21 決算報告

P.16 2024年度事業計画

Vision

誰もが「市民」という役割をたのしめる社会へ

Mission

シミズの自律と自立を支援する

Service

“たのしい”のプロデュース

人のいるあらゆる場所、場面で、「自分でつくる」ことへの働きかけを企画するのが私たちの仕事です

- 市民参加の企画・プロデュース
 - チームブランディングプログラムの提供
 - コミュニティプランニング
 - ファシリテーション
 - コミュニケーションデザイン
- など

Category 事業部門と実施事業

2023 年度より事業部門を再編成し、以下の 4 部門で事業を進めています。

部門	事業区分	実施事業
まちづくり部門	市民参加型公共施設運営事業	東播磨生活創造センター
	コーディネート事業	メディアへのコーディネート 企業・施設等へのプラン提供
	市民参加型まちづくり支援事業	かわのまちリビング運営支援事業 公共空間の市民参加支援事業 加古川経済新聞運営 講師・ファシリテーター派遣
まちまなび部門	まち保育事業	かわのまちほいくえんの運営
	学び支援事業	人・まちわくわく学び塾事業 探求学習・キャリア教育支援
組織支援部門	組織支援事業	HYOGON 事務局 伴走型組織・プロジェクト支援 講師・ファシリテーター派遣
総務 / 経営部門	会員・総会	機関誌発行・探究会開催
	法人管理・理事会	

2023 年度 シミズシーズ ハイライト

2023 年度にシーズで起きた出来事を
5つのトピックスにまとめました♪

1 東ハリマくらし学校 人をつなぐ役割について 考える授業を開催

今年度は、地域の中での活動の必要性や多様なつながりを持つことの意義を感じてもらえるような授業を実施しました。「かこむ」の利用者を中心に、地域と自分との関わりや自身の活動が地域にどのような影響を与えているかを考えてもらうきっかけをつくることができ、人と人をつなぐことで活動を後押しする「コミュニティ・コーディネート」という役割の認知や価値を広げることができました。



2 深まる保護者との関わり 「まち保育」は次の展開へ

かわのまちほいくえんは運営 3 年目を迎え、商店街との関わりも年々深まっています。「まちの人」でもある保護者と一緒に保育活動をつくるが増え、関わりが一層深まったことは今年度の特徴の1つと言えます。また、まち保育を外に開いていく場として「あおぞらまちほいく」を初開催。子どもの育ちを起点にまちの人同士がつながるような、まち保育の次のステージを意識した一年となりました。



3 かわのまちマーケット 年間を通じたエリアの にぎわいづくりに挑戦

昨年度の試験開催をふまえ、もっと自由に使えるまちになり、まちを使う人が増えるよう、今年度は月 1 回開催しました。ボランティア・商店街・近隣商業施設・加古川市など様々な人にご協力いただきながら実施してきました。市民の発表の場になったり、商店街が活用されたり、少しずつ変化が起こってきています。これからも楽しい「まちの使い方」を提案していきます。



4 みとろの丘リニューアル!! 農園やマーケットで みんなの居場所へ

2023 年 4 月からリニューアルに向けた工事がスタート。室内植物公園やレストランカフェ、グランピング施設やキャンプ、ドッグランを楽しめる農業公園へと生まれ変わります。工事期間中、子どもの農業体験プログラムやファーマーズマーケット、DIY を企画し、たくさんの市民が関わるプロセスをつくり、企画運営のサポートを実施。みんなで作る「みとろの丘」に向けて活動を進めました。



5 共同事業体で 播磨町中央公民館の 指定管理運営に挑戦

2024 年度から始まる「播磨町中央公民館」の指定管理運営に向けて、当法人が 15 年間「つながる施設」として「かこむ」を運営してきた市民参加型施設運営とコーディネート経験を生かし、準備を行ってきました。播磨町のさまざまな活動がつながることによって播磨町の活動を後押しできる拠点となるよう、2024 年度から「播磨町がつながる拠点」というコンセプトで共同運営を行います。





kaco-LAB. フェスと同時開催した HINTO ライブ。参加者同士のグループディスカッションの一場面

東播磨生活創造センター「かこむ」指定管理運営事業（兵庫県東播磨県民局指定管理事業）

まちへの広がりを意識した市民参加型施設の運営

指定管理期間（2021年～2025年）の3年目を迎えた今年度は、これまでの「つながる施設」を大事にしつつ、さらに「まちへの広がり」を意識した運営に努めました。

300以上の団体や個人が登録するコミュニティ「kaco-LAB.（カコラボ）」では、つながりから新たな活動が生まれる後押しを実施。ボランティア制度「かこむパートナー」は、「かわのまちほいくえん」との連携によってまちの活動へ発展しました。情報冊子「HINTO」では「まちに関わるHINTO」をテーマに、まちとのつながりを意識しました。「つながる施設」として15年間運営してきたことから、幅広く、質の高いつながりを意識して運営することができつつあると考えます。そんな私たちだからこそ、まちにどのようなつながりや変化を生み出す役割を担うことができるか、そんな可能性を模索しながら事業を進めた年度となりました。

今年度は「かこむ」のインナーブランディングにも取り組みました。全スタッフが「かこむ」の「らしさ」について考える機会を複数回開催し「コーディネート」として大事にしたい考え方」を共通言語としてまとめました。私たちコーディネーターにとって大事にしたいことを繰り返し

し対話し、ひとつの指針としてつくり上げていくなかで、「コミュニティ・コーディネート」という新しい言葉が生まれました。東播磨全体でゆるやかなつながりが溢れるためには、様々なジャンルでつながりを育むことが重要であることを共通価値と設定しました。

これまで「かこむ」らしさをつくりてきた、さまざまな世代、ジャンルの方と「一緒につくる」という市民参加型の運営は、今後、地域やまちづくりの場面で、ますます重要になってくると考えます。これからの地域活動がさらに活発に発展していくよう、「かこむ」運営で培ってきたノウハウを次年度以降、さらにまちに広げていきます。

DATA

開館日数	350日
年間来館者数	195,275名
有料施設稼働率	69.5%
登録ボランティア総数	21名
kaco-LAB. 登録	334団体

まちで「やりたいこと」に挑戦する人の 背中を後押しする情報発信「HINTO」

「東播磨暮らしを豊かにする情報発信」をコンセプトに、年に1度、東播磨地域の人を通して生き方や暮らし方の事例を冊子で紹介するプロジェクト。今年度の第3弾では「個人のやりたいこと」をまちの中でも挑戦してもらうために「まちに関わるヒント」というテーマで発行しました。



東播磨地域に関わるヒントを紹介する HINTO

興味や関心から施設運営の市民参加へ活動が 大きく広がった運営パートナー

運営パートナーは、得意な分野や関連する分野での活動が大きく発展した1年となりました。フラワーパートナーでは、庁舎通路の花の植替えについて花の種から育てることを試みました。図書パートナーでは、活動方針である「人が集まる、滞在したくなる、図書コーナーをつくる」を実現するため、コーナーレイアウトのリニューアルに取り組みました。



運営パートナーが中心となり庁舎通路の花の植替えを実施

地域での活動の必要性や多様なつながりを 参加者と一緒に考えた「東ハリマくらし学校」

今年度の東ハリマくらし学校では、自分自身の楽しみが活動意欲になっている人に向けて、地域の中での活動の必要性や多様なつながりを持つことの意義を感じてもらうことを目的に実施しました。「かこむ」の利用者を中心に、地域と自分との関わりや自身の活動が地域にどのような影響を与えているかを考えてもらうきっかけになる授業を開催しました。



シニアとまちの関わり方をテーマに開催した東ハリマくらし学校

自分の活動の「伝え方」と自分以外の活動を 「知る」ことができた kaco-LAB. フェス

kaco-LAB. に登録している58の団体および個人が「活動体験、ステージ、活動展示」などのブースを出展し、2日間で延べ1,903人の参加者が訪れました。幅広い世代が体験や交流を楽しむことができるイベントとなりました。

ここ数年、地域で活動する個人や団体は「活動を知ってもらいたい」「仲間を増やしたい」と意気込む一方で、コロナ禍での活動制限や、活動する人の固定化によって、内向的になっている傾向が見られました。今年度は、他団体との交流や学習の機会を重視しました。事前に、活動内容を1分で伝える講座やお互いの活動を知る交流の場となりました。この結果、お互いの関係性が深まり、今後の活動についての情報交換ができました。

本企画を通じて、イベントを開催するだけでなく、講座や交流要素を組み込む過程で、日常の中での学びや活動のヒントを掴めるきっかけを提供していく重要性を感じました。今後は、日常における学びのきっかけとつながりを深めることによって、地域活動を後押ししていきます。



kaco-LAB. フェス振り返り会後の集合写真

様々な価値観が混じり、つながりが生まれた kaco-LAB. 交流サロン

つながりを生み出すことを目的に「kaco-LAB. 交流サロン」を実施しました。今年度からは、さらに3つの交流の場と活動支援を行いました。1つ目は、会員同士が交流する場「kaco-LAB. 交流サロン」全10回。2つ目は、会員同士が事業を共催し「かこむ」が開催を支援する場「kaco-LAB. 交流サロン・新コラボ企画イベント」全3回。3つ目は、自分たちの活動を紹介する場「シニア交流サロンとの連携事業」全6回を開催しました。次年度も会員の声を反映し、広範囲なサポートをしつつ、交流会、体験会、連携事業を推進していきます。



終活をテーマに団体同士がコラボし企画した交流サロン



かわのまちマーケット開催の様子。毎月来場される方もおり、出店者とのコミュニケーションの場に。

市民参加型まちづくり支援事業

まちの中でのつながりづくりから、参加促進へ

DATA

開催日程	来場者数	出店者数	ボランティア数
4月1日	2,396名	45名	3名
5月7日*	3,277名	66名	11名
6月4日	2,799名	40名	7名
7月2日	2,093名	40名	7名
8月6日*	3,862名	66名	11名
9月3日	2,041名	40名	8名
10月1日	2,250名	40名	4名
11月5日*	5,947名	90名	18名
12月3日	1,930名	40名	7名
1月7日	2,009名	40名	3名
2月4日*	4,714名	90名	9名
3月3日	2,346名	40名	7名

* 周辺エリアまで拡張した「ロングバージョン」での開催数

今年度から多くの市民が参加したまちづくりを進めていく「市民参加型まちづくり事業」と名称を定め事業を進めました。特に、公共空間を活用した事業として「かわのまちマーケット」では商店街や道路の活用、公共施設の市民参加「みとるフルーツパークの企画運営支援」など、これまで当法人が培ってきた市民参加のプロセスや仕かけづくりをまちづくりの取り組みへ活かすことに挑戦しました。事業を進めるなか、当法人の考える「市民のまちへの参加を促進すること」をいわゆる「パブリックデザイン」と捉え、コミュニティがあるまちの空間をどのようにつくり上げていくかを走りながら考えてきました。また、なかに



小学生から大人まで多様なボランティアと運営

人や情報、場や活動、これらをつなぐことによって、まちの関係を育み、つながりからまちを育んでいく。本事業を通じて、そのようなまちの関係を育むことに挑戦していきたいと思っています。

かわとまちをつなぐ公共空間の市民参加

「かわとまちをつなぐ」をコンセプトに、人と人、人とまちをつなぐ取り組みを行いました。出店者と来場者、出店者とまちとの関係性が生まれる雰囲気づくりを大切にしています。出店者同士で店番をしあったり、毎月出店していた出店者からは「常連ができて毎月会うのを楽しみにしています」といった声があり、つながりがひろがっています。

また「みんなでつくる」市民参加を意識し、様々な人が関われる仕掛けをこころがけました。準備・片付け・当日の運営のほとんどをボランティアが中心となって運営し、じけまち商店街からは備品の提供や当日準備への参加、企業からはスペースや備品の貸出、出店者も準備や、来場者への景品提供など積極的に協力いただいています。出店者の中には地域の消防団や、近隣小学校の保護者会の出店のほか、かわのまちマーケット開催に合わせて商店街内の貸店舗を利用した出店もありました。市民からの持ち込み企画実施の打診も多く、イベント内での発表の場として利用されています。

定期開催を行ったことでイベントが定着し、地域の中でかわのまちマーケットを利用した主体的な活動がうまれてきています。



持ち込み企画の南京玉すだれパフォーマンス



加古川北高校有志企画のステージ

駅前エリアの活用を目指し、 月1回「かわのまちマーケット」を開催

まちなかを活性化させ、市民の活動の場を広げることを目的に、「かわのまちマーケット」を月1回年間通して実施しました。会場は加古川駅前東西に伸びる「じけまち商店街」のほか、ニッケパークタウンの「花のひろば」、11月からは加古川駅南口から南北に伸びる「ベルデモール商店街」の一角も借りて開催しています。年間35,000名以上が来場し、632店舗の出店者、約90名のボランティアや各商店街、加古川市の協力を得て運営しています。中心会場の「じけまち商店街」だけでなく、駅前から加古川河川敷までを一つのエリアとして捉え、道路使用の制限緩和にむけた警察との協議や、近隣商業施設との連携、河川敷までの導線作りの検証など、公共空間の利用について取り組みました。



かわのまちマーケット開催中の様子

加古川市と甲南大学との協働事業・ かわまちづくりワークショップとの連携

かわまちづくりに対する市民の参加意欲を高めることを目指し、2021年度から加古川市の委託を受け、ワークショップを開催しています。今年度は甲南大学経営学部3回生が企画した「加古川河川敷おしゃれピクニック」を通じて、加古川駅から河川敷への回遊性の検証を行いました。イベント当日、来場者は受付で専用かごバッグを受け取ってデコレーションを施し、かわのまちマーケットで購入した商品を持って河川敷でピクニックを楽しむ、という企画を実施しました。

検証結果として、イベント開催時は一定の回遊性があったものの、道程の途中で断念した参加者も見受けられました。駅から河川敷までが広範囲のため1日で全てを歩いて楽しむのではなく、用途に合わせた利用ができる特色づくりと、エリア間での連携の必要性を感じた取り組みとなりました。



親子でワークショップに参加いただきました



左上・中：みとろファーマーズマーケット 左下：あそび場をつくろうプロジェクト 右3枚：みとろキッズファーマーズクラブ

みとろフルーツパーク運営支援

公園も「みんなでつくる」運営支援

あそび場をつくろうプロジェクト

開催回数 2回 SNS 発信 7回
参加人数 35組 109名
協力 森建築工房

みとろファーマーズマーケット

開催回数 12回 SNS 発信 61回
参加人数 延べ 8,100名
出店者数 275店舗

みとろキッズファーマーズクラブ

開催回数 10回 (+予定外活動 5回)
SNS 発信 18回
参加人数 61名 (幼児 12名含む)
ボランティア 21名
協力 うちだけの IKIKATA



1999年から運営が開始された加古川市の観光農園「みとろフルーツパーク」は、2022年度から指定管理者が変わり、暮らしの身近な場所として生まれ変わります。2024年4月のグランドオープンに向け、農業体験、宿泊体験、食の体験など順次リニューアルオープンしています。より多くのファンを増やすため、当法人は「かこむ」で培ったノウハウを生かし、市民を巻き込んだ運営を行うためのイベント企画、2024年4月のグランドオープンに向けて大きく3つの事業の企画・運営支援を行いました。

「三つ目は、生産者と消費者がつながる場」「みとろファーマーズマーケット」です。単なる売り手と買い手ではなく、新たな発見や出会いが生まれる場となりました。

二つ目は新しい農業振興の形を考えるため、小学生を対象にした農業プログラム「みとろキッズファーマーズクラブ」です。

「三つ目は、自分たちであそびを考え、自分たちの手で製作する」「あそび場をつくるプロジェクト」です。

園内に設置する丸太ベンチなどを参加者と一緒に製作しました。この過程を共にすることで愛着を育み、繰り返し利用してもらえる場所になるよう企画しました。当プログラムは継続開催が望まれ2024年度は製作物検討から市民を巻き込んだワークショップとして実施することが決定しています。

また、変化していく同園の状況をリアルタイムに伝える広報支援を行いました。結果として主催するイベントや運営に積極的に関わる市民を発掘し、コンセプトに共感する企画運営の中心を担う人物を同園につなぐことができました。



左上・下：小学生向け夏休み講座。パッカー車をデッサンしポスター制作 右上：廃材で箱型楽器「カホン」づくり 右下：流木、海ごみで木工工作

企業等へのコーディネート事業

地域密着で身近な発見の機会を提供



松右衛門帆のハギレを使った小物づくりの様子

市民活動やNPO、サークル活動にとっては、自らの活動をPRする機会が多くありません。一方で、地元企業にとっては、地域活性化の取り組みは不可欠な要素となりつつあり、施設運営や事業に取り入れる企業が増えてきています。当法人のコーディネート事業では、そのような市民の活動と企業や組織をマッチングすることで、活動場所の提供と同時に、地元企業の地域貢献を後押ししています。

高砂市の広域ゴミ焼却施設である「エコクリーンピアはりま」にて、同施設の目標である市民に親しまれるリサイクル施設としての取り組みの「環境学習リサイクル講座」への提案と講師のコーディネートを行っています。今年度は、環境学習を気軽に楽しめる機会提供を目指し、「ものづくり」ワークショップに特化して年間で36回の講座を開催しま



稲美町大麦を使ったヒンメリづくりには外国人参加者も

した。

小学生とその保護者の参加が多く、親子での需要が高い傾向から、夏休み期間中に小学生向けの特別講座を開催しました。「施設内でスケッチができるポスター講座」など、夏休みの宿題の参考にもなる内容を提供しました。期間中の全ての講座が満席となる好評を得て、夏休み以降の講座の集客にも寄与しました。

さらに、地域素材の活用に着目し、高砂市の松右衛門帆や稲美町の大麦などを材料に取り入れられました。参加者が環境課題を身近に感じることができるよう講座となりました。

今後は、より幅広い層に環境学習に参加する機会を提供できるよう、大人向けの講座などを企画しています。また、講師にとっても地域の魅力と環境学習の両方を提供できる機会を創出していきます。

地域の小さなニュースを丁寧に届ける

2018年度より加古川の情報を全国に配信するため、BAN・BANネットワーク株式会社と連携しニュースサイト「加古川経済新聞」の運営を行っています。2023年度は週1回の記事配信を担当し、「地域のビジネス&カルチャーニュース」を取り上げ、地域活動の後押しをしました。地域で開催されるイベントや新たに始まった活動の紹介をできるだけ多く取り入れられるよう、取材先選別に力をいれています。他事業で他施設との連携も行うことで、行政や学校連携などの情報発信も行うことができました。取材先候補の収集では拠点がある加古川の情報が偏りやすいため、さらにネットワークを広げ、東播磨全体の情報発信を目指します。



みとろフルーツパーク、レストランオープンの記事



「かこむ」で相談対応を行っている団体の活動紹介

取材先

加古川市 41 件
高砂市 5 件
稲美町 4 件

活動ジャンル

地域活動 21 件
飲食店 17 件
行政 4 件
その他 8 件

紹介内容

店舗オープン・周年 27 件
イベント紹介 16 件
活動紹介 7 件

2024年度の準備「播磨町中央公民館」の指定管理運営に向けて

2024年度から播磨町中央公民館を運営



播磨町中央公民館の正面玄関

2024年度からNPO法人ニュー☆ハリマを代表団体とする「ニュー☆ハリマ・シミズシリーズ共同事業体」として播磨町中央公民館の指定管理運営を開始します。「播磨町がつながる拠点」をコンセプトに企画し無事に採択されました。4月運営に向けたコーディネートスタッフの採用や運営基盤の準備を行いました。4月から11名体制で運営をスタートさせます。公民館をはじめを、これからの社会教育施設に求められる役割は益々幅広くなっていくと考えています。誰もが使いやすく、人とひとつながる地域拠点へ。本事業は「これからの社会教育・これからの新たな地域拠点づくりへの挑戦」と捉え、取り組んでいきたいと考えています。



職員の採用説明会の様子



運営団体ニュー ☆ハリマ代表の在間さん



職員研修は理事の木上が進行を担当

自分らしい人生を自ら選択できる力を育む



職業人インタビューに向けて質問を出し合う様子

卒業後の進路を見据え、「自分らしい人生を自ら選択できる力」を身につけることを目的に、兵庫県立農業高等学校定時制課程より依頼を受け授業プログラムを設計、実施しました。授業は本格的に就職活動が始まる前段階の2年生を対象に、進路担当の先生と共に1年を通じた連続プログラムを設計しました。また、書き進めれば自然と内省が進むオリジナルのワークシートを作成し、それを元に生徒同士で対話を進め、自身の生き方を深めていきました。生徒からは「仕事に対するイメージが『しんどい、つらい』から『やりがい、喜び』に変わった」「自分がやりがいを持って働ける仕事を探していきたい」という声が多くありました。また、2年生の授業を評価いた

DATA

兵庫県立農業高等学校 定時制課程

4年	シミンのジリツ講座	6回
2年	未来を拓く特別授業	5回
1年	未来を拓く準備授業	2回

兵庫県立農業大学校

1年	キャリアデザイン	4回
----	----------	----

だき、同校の1年生を対象にした進路選択の準備授業の依頼を受けました。1年生のプログラムは、全クラスを一同に集め、大人数でのゲーム形式による授業を設計しました。授業時間に余裕が生まれたことで、自己開示のステップを丁寧に設けることができ、学年全体の関係性を徐々に深めながらクラスビルディングを効果的に行うことができました。先生からは「普段、積極的に授業を受けたい子が、嬉しそうに自分のことを話す姿を見て驚いた」と感想をいただきました。来年度は、1年生から3年生まで一貫した授業プログラムの相談を受けており、生徒の状況に合わせたより丁寧なプログラム設計に取り組んでいきます。

東播磨「ひと・まち」わくわく学び塾事業（兵庫県東播磨県民局受託事業）

まちあるきと工作を通じてまちへの関心を高める



全員の作品を巨大マップの上に並べ「まち」が完成

「東播磨『ひと・まち』わくわく学び塾事業」は、進学や就職により地域を離れる可能性のある若者を対象に、東播磨地域への愛着を深め、地域づくり活動への関心を高めることを目的に、兵庫県東播磨県民局からの委託を受けて実施しています。今年度は、学業で忙しくなる前段階の主に小学生を対象に夏休みの宿題に関連させたイベントとして実施しました。イベント当日は、まち歩き体験による観察や発見から「子どものまちへの好奇心」を引き出し、「まちにこんなものがあつたらいいな」と思える「好きな場所、夢の建物、理想のまち」をテーマに、子どもならではの発想でダンボールなどの素材で立体物を制作しました。まちを歩き、まちを作るプロセスを通



ボランティア学生が子どもたちをサポート



子どものワクワク感を盛り込んだ募集チラシ

じて、地域に興味を持つきっかけを提供することができました。また、夏休み期間中に新しいことにチャレンジしたい高校生や大学生を対象に子どもたちをサポートするボランティア学生を募集し、活動を通して、自分のまちについて考える機会を提供しました。



左上：保護者との音楽セッション 左下：まちの先生とのキッチンカー製作 右上：明石・魚の棚商店街での体験活動 右下：まち中のパン屋さんに夢中になる園児

かわのまちほいくえん運営事業

保護者とより近くへ。「まちに開く」場づくりにも挑戦

「まちの人と毎日をつくる保育園」を保育理念にいた、30名定員の企業主導型保育園「かわのまちほいくえん」は運営の3年目を迎えました。商店街との関わりは年々深まり、今年度は避難訓練時に近隣店舗の軒先や倉庫を提供してもらったり、ハロウィンの時期には3〜5歳児の手作り衣装を商店街の人たちにも見てもらいたいという声から、自分たちで作ったクッキーを「ハッピーハロウィン」として衣装を着て手渡したりするといった活動が生まれました。

また、今年度は保護者の関わりが深まったことも大きな特徴であると言えます。今年度のオープンデー（保護者参観）は、1日につき1人來園し保育補助に入ってもらおうという新しい参観の形を始めました。保護者もまちの人であり一緒に毎日をつくっていく人として、昨年度以上に距離を近くしていくことを目指しての試みです。9月に開催した運動会は、プログラムの内容から、準備片付けや音響まで、保護者のみなさんや地域の方、卒園児も一緒になってつくり、多世代が集って楽しむ場となりました。このように保護者のみなさんも子どもたちの毎日をつくる一員になってもらうことを目指した結果、11月には木工製作が得意な保護者と本格的な器具を使った看

板作り、12月には楽器を趣味とした保護者との音楽セッションと、子どもたちの保育活動に発展しました。保護者が「まちの先生」になる新たな展開が生まれています。

3月末の春休み中には、子どもたちがよく遊びに行く金剛寺浦公園（通称・タイヤ公園）にて、「あおぞらまちほいく」と題した、まち保育を外に開いていく場を初めて開催しました。当園園児と園外の乳児とその保護者、近隣小学生、地域団体や地域の大人が公園に集い、遊びを通じて交流する試みです。大学生インターンが中心になって企画し、SNSでの発信のほか、商店街、町内会の協力によって広報を行い、まちの人とともにまち保育を進めていく土台をつくることができました。また、まちの先生として度々きてくれている魚屋さんのお店に、年長児は電車に乗ってお店の見学と魚屋さん体験する機会をいただき、リアルな仕事に触れられる機会は子どもたちの「できた」という自信につながりました。

このような園から生まれた大小様々なまちの人とのつながりは、園児の「やってみたい」という想いに応え、豊かな関わり合いの中で子どもたちの社会性の発達を後押ししてくれています。

広がるまちの先生との豊かな関わり

趣味や特技、仕事を活かして子どもたちに体験や学びの機会を提供しに来園してくれる地域の人たちを「まちの先生」として迎えています。今年度は延べ 200 名を超えるまちの先生が来園しました。その中には園児の保護者も含まれており、オープンデーでの交流を通じて保護者の趣味や特技を知ること、保護者同士をつなげる機会が増えた結果、合同セッションによるクリスマスコンサートが実現するなど、昨年度以上に多様な活動が広がりました。まちの先生たちとの関わりを通じて、園児はさまざまな体験を積み自らの可能性を広げています。また年々地域全体で子どもたちを育む環境が整ってきていると感じています。今後もこのような活動を続け、子どもたちの成長を支えるとともに、地域とのつながりを大切にしていきたいと考えています。



かこむフラワーパートナーとの花のしおりづくり

インターンシップ等学生の活動を応援

今年度は、昨年度よりさらに、トライやるウィークやインターンシップ生の受け入れを行い、園児との触れ合いや生活サポートの体験、園周辺の地域とコミュニケーションを図る社会参加の機会を提供しました。

大学院生が研究内容の参考に調理活動の視察を行ったり、高校生が卒業論文制作のため園児と保育者のコミュニケーションの観点から視察やインタビューを行ったりするなど、学生の知見を広げるサポートを積極的に行っています。また、近隣公園での「おおぞらまちほいく」の開催において大学生が企画・広報を担当する長期インターンシップも実施しました。大学生は、地域のニーズや園児の成長を瑞々しい感覚で捉え、まち保育の園外展開の第一歩を共に進めてくれました。

2023 年度 まちの先生との 体験活動（一部）

運動教室

編み物遊び

絵本の読み聞かせ

就学準備教室

茶道体験

折り紙遊び

人形劇

いのちの教室

キッチンカー製作

農園土づくりと菌の話

リトミック

発酵あんこづくり

交通安全教室

木工体験・看板づくり

苗づくりと寄せ植え

牛乳パック製作

押し花づくり

クリスマスコンサート

昔あそび

凧づくり

味噌玉づくり

節分恵方巻きづくり

まちと保護者と「一緒につくる」年間行事

当園では、決まった行事を設けず、園の状況や園児の姿に応じて毎年見直しを行っています。今年度は、初めて保護者向けのオリエンテーションを開催し、今年度の方針を伝えるだけでなく、職員と保護者、保護者同士の交流の時間を持つことができました。オープンデー（保護者参観）は、保護者が保育補助の一員としてわが子だけでなく他の園児にも関わられる形態に変更しました。保護者がグループ活動や給食に参加し、自身の趣味を活かして折り紙を教えたり、おにごっこと一緒に楽しんだり、保護者の積極的な関わりにより和やかな雰囲気の中で園児と大人が混ざり楽しむ時間となりました。11 月のかわのまちマーケットでは、園児自作の衣装をまちの人に披露するファッションショーを開催しました。今後もまちの中でまちの人と「一緒に作る」行事のあり方を模索していきます。



オープンデーにて保護者の得意な折り紙あそびの活動

まち保育の園外への展開

交通安全教室からの縁で、交通安全活動に参加しました。園児は自作の旗を持って駅前を歩き、まちの人々に交通安全を呼びかけました。その様子はニュース番組で放送され、新聞にも掲載されました。また、年長児は明石・魚の棚商店街の魚屋さんの招待で店舗見学、職業体験も行いました。店舗での呼び込みやお客さんに買ってもらえた体験は園児にとって大きな自信につながったようでした。さらに、今年度は園内での取り組みをまちにも開いていく新たな試みも行いました。近隣公園を活用し実施した「おおぞらまちほいく」では園外の子どもと保護者だけでなく、小学生や近隣療育施設に通所する子どもたちも参加できる場として開くことができました。今後も、まちづくりに寄与する保育園として、地域とのつながりを深め、地域の子どもの成長を支える活動を大切にしていきます。



金剛寺浦公園で「おおぞらまちほいく」の開催



公益財団法人ひょうごコミュニティ財団では、理事などの関係者を交えて理念構築を実施。

NPO 等活動支援事業

組織支援事業を強化。提供先が8団体へ。

今年度は、8団体に向けてチームブランディング支援や組織基盤強化のための伴走支援を行いました。理念構築支援とボランティアアマネジメント支援、団体コピー制作とパンフレット制作、団体の存在意義を踏まえたボランティアスタッフの育成方針を考える支援など、団体の課題に合わせプログラムをカスタマイズし、活動の自律性をより高める支援を行いました。

今年度の特徴的な活動支援の一つとして、全国フードバンク推進協議会より依頼いただいたフードバンク6団体に向けた集合研修が挙げられます。同じテーマで活動している団体が集い自団体の理念を考えることで、他団体との価値観の違いが明確になり「自団体らしさ」を認識できる効果がありました。同じテーマで活動している団体に向けた集合研修型の新たなチームブランディング支援の形を見出すことができました。また、チームブランディングを提供した団体のうち3団体が「不登校・子どもの学び」をテーマに掲げた団体であり、社会的ニーズが高まっている領域であることが伺えます。

また、オンラインセッションの幅を広げることができたことも今年度の成果の一つです。今後も支援の幅を広げ、団体に合わせたカスタマイズを続けていきます。

DATA

NPO 法人 ここのね
理念再構築支援
(オンライン6回／12時間)

任意団体 イホルラ舎
理念再構築支援
(対面2日間／計12時間)
オンライン3回／計4.5時間

すっきゃ加古川／加古川観光協会
かこがわ検定講座・チラシポスター制作

NPO 法人
多様な学びプロジェクト
理念再構築支援
(対面2日間／6.25時間)
オンライン4回／計5時間

公益財団法人
ひょうごコミュニティ財団
理念再構築支援
(対面7回／計21時間)

一般社団法人
全国フードバンク推進協議会
ビジョンミッションの再定義と
広報戦略研修の実施
(対面2日間／計9時間)

NPO 法人
ウエルネスハート
団体コピー制作・パンフレット制作
(対面1回／2時間)
オンライン1回／2時間

センターの支援の在り方を元に 支援員の育成方針を定め、仕組みをつくる

組織基盤強化支援では、(公財) ひょうごコミュニティ財団による有園博子基金の助成団体に対する伴走支援の支援先が新たに1団体増え、全2団体に向けて支援を行いました。継続支援している3年目となる団体へは、昨年度に定めた「このセンターだからこそできる支援の在り方」を元に、より具体的な「支援の質」のすり合わせを行い支援員の育成方針を検討するだけでなく、かねてから課題となっていた組織ガバナンスの見直しの支援を行いました。その中でも分かりやすい成果として、「支援員のできたねチェックリスト」の整備が挙げられます。支援員に求められることを具体的な項目として整理できたことで、ボランティアによる支援員のモチベーションを維持するための成長目標を立てやすい環境を整備することができました。また項目を検討するプロセスは、現場に入らない理事と現場のコーディネーターとの「支援の質」についての相互認識を確認しあう過程ともなり、行き違っていた細かな点の理解を揃えることができました。



支援員に求められる具体的な項目を洗い出し体系的に整理



支援員に向けて1年の取り組みを伝える全体研修



支援員が主体的に組織運営に関われる糸口を探る



ホワイトボードツール miro を活用したオンラインでの支援



フードバンク6団体による集合研修



関心層を巻き込んでいくため再構築した理念を共有



団体コピーづくりとリーフレット制作を支援



活動が広がり、改めて全事業の整理位置付けを整理

参加者ニーズを引き出す場づくり



つどい場の活用方法について話し合っている様子

今年度は2団体に向けて地域住民との対話支援を行いました。一つは生活協同組合からの依頼で、従来の店舗を地域住民が交流できるスペース「つどい場」としてリニューアルすることに伴い、場の活用方法を地域住民と対話する全2回のワークショップの当日運営からプログラム内容の企画提案、広報協力まで実施しました。広報協力では当法人のネットワークを活用し、今後「つどい場」を利用する可能性の高い地域活動団体・個人への呼びかけを行いました。ワークショップ当日は、地域活動団体から「親子で防災リユックづくり」や「ヨガや調理などの親子講座」など地域活動団体のニーズに沿った意見を集めることができ、「つどい場」の利活用を促進するこ



グループごとに話した内容を発表している様子

とことができました。もう一つは任意団体からの依頼で、介護予防につながるような地域拠点づくりにあたり高齢者が何を必要としているかのニーズを引き出すため、全2回の対話ワークショップの当日運営、プログラムの企画、実施を行いました。ワークショップ当日は参加対象者の高齢者がより話しやすい場をつくるため、雑談会という形で進行を行い、対話を進める中でそれぞれのニーズを興味・関心から引き出すことができました。ワークショップを通して、必要な場や機会を知るだけでなく「地域拠点に行つてイベントに参加してみたい」という感想もあり、今後も主体的に関わってもらえる関係づくりにつながりました。

住民主体のまちづくりを進めるための対話の場づくり



「えんたくん」を使用し、膝を付き合せて対話

赤穂市社会福祉協議会より依頼を受け、地区懇談会における住民同士の対話支援を行いました。昨年度に実施した赤穂市地域福祉推進計画策定の際に地区（小学校区）ごとに話し合われた住民主体の課題や取り組みを一歩前に進められるよう、今年度も地区別懇談会の実施のサポートを7地区に向けて行いました。理想とする地区像に向けて地域が自走できる状態を目指し、広い視点で意見が出せるよう他地域における住民主体のまちづくりの事例について話題提供を行い、「住民主体のまちづくりをさらに進めるために必要なこと」をテーマに話し合いました。話題提供では、各地区における現状を踏まえ、「まちおこしと



話し合いを踏まえ大事だと思うポイントを共有

地域づくりの違い」「小学校区の単位だからこそできることは？」「役を持たない人が参画できるよう、どう関わりしるをつくれるか？」の観点で他地域の事例を交えポイントを共有しました。参加者からは「こういった話し合いをする時間をもっと設けてほしい」「同じことを課題と認めていることが確認できた」「次に取組んでいく方向性が見えてきた」などの意見があり、地区における課題や取り組む必要がある方向性について全員で共通認識を持つことができる時間となりました。

他機関との連携による団体支援

公益財団法人ひょうご「コミュニティ財団」主催の「NPO・地域活動の資金調達セミナー」は、兵庫県内の7地域において開催されました。令和5年度の「孤独・孤立対策活動基盤整備モデル調査事業」の一環として行われ、NPO団体や地域活動団体が財源を確保するための方法や助成金申請のポイントについて学ぶことを目的に、当法人は加古川会場の全2回を担当しました。当法人が実施したセミナーでは、単に申請手続きに関する情報だけでなく、参加者が自らの活動の目的や公益性について考えることに焦点を当てました。セミナー後は、5団体への個別相談や1団体への伴走支援も行い、参加者が悩みや疑問を相談できる

機会を提供できました。さらに、県内の中間支援組織との連携や意見交換も行われ、申請団体への採択後の活動のサポートや見守りの必要性を共有しました。このような連携の機会が、広域での継続的な支援を視野に入れる上で非常に貴重なものとなりました。

また、公益財団法人トヨタ財団が実施する助成プログラム「新常態における新たな着想に基づく自治型社会の推進」の募集説明会を共催しました。関西エリアで説明会を担当し、助成プログラムの概要や個別相談をトヨタ財団が行い、申請準備のワークシoppの企画運営、広報事務局を担当を行いました。

この助成プログラムは、「自治」

や「自治型社会」を実現するための支援を目的としており、地域内の様々な関係者が協力しながらプロジェクトを推進することが重視されるため、ワークでは、地域の資源を見つけ出し、関係者の参加を促すことでプロジェクト計画を充実させることに焦点を当てました。通常の小規模な地域活動の助成金相談とは異なる形の支援であり、新たなチャレンジとなりました。

今後も個々の団体に対する助成金相談だけでなく、助成元との連携を通じて、地域での活動が意義ある公益活動へと発展していくよう促していきます。



資金調達セミナー当日の様子



トヨタ財団助成プログラム募集説明会当日の様子

DATA

ひょうご7地域合同資金調達セミナー

- ・「助成金」とは？～申請を書く前に～（10名）
- ・申請書の書き方のポイント（13名）

トヨタ財団助成プログラム募集説明会

- ・助成プログラム説明
- ・助成プログラム申請準備ワーク（17名）

持続可能なネットワーク組織運営を目指して

ゆるやかで持続可能なネットワーク組織を目指すため、昨年度に引き続き運営委員がチームに分かれ事業企画を担う体制で運営を行なっています。今年度の大きな変化として、これまで当法人が担っていた事務局業務について運営委員2名も参画する事務局チームを編成しました。組織運営に必要な会議運営（総会・運営委員会）、そのほか、会員管理などの仕組みを進めつつ、事務局チームで役割分担をしながら進めました。HYOGONとしては、賀詞交歓会を開催、翌年度に向けた世代別分野別交流会の企画を進めています。



賀詞交歓会の参加者との集合写真

シーズ機関紙「たのたね」

社会の変化や当法人の活動内容を伝える機関誌「たのたね(これからの「たのしいのたね」の意)」は、25号目を1月に発刊しました。kaco-LAB.フェスなどの事業を紹介しました。



vol.25
これからのたのしい
“活動支援”

総会

第21期通常総会の開催

出席者数：正会員総数 40 中 30 名(うち会場出席 15 名、オンライン出席 1 名、委任状 5 名、書面表決 9 名)

日 時：2023 年 6 月 18 日(日) 13 時 30 分～15 時 00 分

場 所：かわのまちリビング

審議事項：2022 年度(第 21 期)事業報告の件、2022 年度(第 21 期)決算報告の件、役員選任の件

報告事項：2023 年度(第 22 期)事業計画の件、2023 年度(第 22 期)予算の件

理事会

第 1 回	5 月 9 日	2022 年度決算報告の共有、保育園補助金の積立について検討 総会について次期役員の体制について共有検討、役割分担の共有
第 2 回	5 月 30 日	2023 年度通常総会の議案書の確認、次期役員についての検討・共有 経理規定の改訂について共有・意見交換
第 3 回	6 月 18 日	代表理事・副代表理事・常務理事選出の承認
第 4 回	7 月 26 日	出席理事による自己紹介、役員報酬について意見交換・承認 運営状況の報告・2023 年度第 1 四半期の事業報告
第 5 回	9 月 26 日	播磨町中央公民館への指定管理申請について共有と承認 まちづくり部門の今後の事業展開について検討・共有・意見交換 保育園運営規定の改定の検討・共有・意見交換
第 6 回	11 月 24 日	総務規定の新設、給与規定及び非正規職員の給与に関する要項の改訂について共有・承認検討 まちづくり部門今後の事業展開について検討、播磨町中央公民館の指定管理申請の状況共有
第 7 回	2 月 9 日	2023 年度決算見込みの共有、法人戦略会議の共有・意見交換 2024 年度理事の人選及び事業と予算の概要について共有と検討 2024 年度給与プロジェクト発足の承認

2023 年度役員

代表理事	田中 茂	柏木登起	副代表理事	佐伯亮太	井原卓也
常務理事	阪口 努				
理 事	幾田一輝 猫田一城	石田 祐 柳川詔一	木上裕貴		
監 事	高橋 逸	豊福 一			
顧 問	嶋谷拓雄 畑本康介	田代恭也 船本博一	中村義弘 和田谷幸子		

2024 年 3 月 31 日 現在

2023年度講師・委員等派遣一覧

柏木登起

佐用町企画防災課	講師	佐用町地域担当職員研修
公益財団法人ひょうごコミュニティ財団	企画委員	有園基金企画委員
朝来市	講師	朝来市地域づくり研修会・地域担当職員キックオフセミナー
認定 NPO 法人日本 NPO センター	パネリスト	NPO と行政の対話フォーラム 2023
兵庫県企画部地域振興課	講師	令和 5 年度地域づくり支援関係市町職員初任者研修
幕山地域づくり協議会	アドバイザー	佐用町幕山地域づくり協議会運営委員会
NPO 法人杜の伝言板ゆるる	講師	令和 5 年度 NPO 支援施設フォローアップ委託業務人材育成研修
佐用町企画防災課	アドバイザー	佐用町地域づくりアドバイザー
兵庫県地域振興課	委員	ひょうご多自然地域づくりネットワーク会議
		人材育成プロジェクトチーム会議
宍粟市千種まちづくり推進委員会	アドバイザー	宍粟千種町アドバイザー
奥銀谷地域自治協議会	アドバイザー	朝来市奥銀谷地区アドバイザー

柏木輝恵

兵庫県東播磨県民局	委員	東播磨地域づくり活動応援事業「事例発表会」
播磨町住民協働部協働推進課	審査委員	播磨町まちづくりパートナー事業審査委員会
社会福祉会東播ブロック	講師	「かわのまちほいくえん」とシミンズシーズの取り組み
兵庫県東播磨県民局	審査員	東播磨地域づくり活動応援事業
摂津市男女共同参画センター	講師	「たのしい!」「したい!」をつくるアイデア発掘 ～人と地域をつなぐしかけづくり～
一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸	講師	ファシリテーション講座
生活協同組合コープこうべ	講師	組合員・地域活動応援スキル研修（基礎編）
稲美町社会福祉協議会	ファシリテーター・講師	つどいはじめの学校
認定 NPO 法人日本 NPO センター	登壇者	市民セクター全国会議 2023 「住民の交流から活動が立ち上がる場のあり方」
NPO 法人近畿環境市民活動相互支援センター	パネリスト	市民活動と産官学共創～持続可能なグリーン社会の実現～

小笹雄一郎

関西学院大学人間福祉学部社会起業学科	ゲストスピーカー	シミンズシーズでの活動紹介
NPO 法人ブラッツ	講師	もっと活動を知ってもらうには
認定 NPO 法人コミュニティ・サポートセンター神戸 (甲南女子大学国際学部多文化コミュニケーション学科)	ゲスト講師	国際問題・社会課題の伝え方、伝わり方
NPO 法人ブラッツ	講師	但馬コミュニティ協創会議
公益財団法人兵庫県生きがい創造協会	講師	コミュニケーション講義&ワークショップ

阪口努

平岡町を良くする会	講師	ワークショップ
-----------	----	---------

木上裕貴

兵庫県西播磨県民局	アドバイザー	上郡町地域再生サポーター派遣
-----------	--------	----------------

川口和也

兵庫県県民生活部県民躍動課	ゲストスピーカー	県立文化会館等次期指定管理者研修会
---------------	----------	-------------------

菅岩あゆ子

稲美町生涯学習推進課	講師	稲美町生涯学習推進員研修会
------------	----	---------------

石井加納子

兵庫県立加古川南高等学校	講師	キャリアデザイン授業
--------------	----	------------

大福幸帆

公益財団法人兵庫県生きがい創造協会	講師	NPO 演習講座
-------------------	----	----------

柏木登起・阪口努

NPO 法人杜の伝言板ゆるる	ゲストスピーカー	NPO 支援施設フォローアップ事業人材育成研修 「NPO と地域の『つなぎ手』となるために」
----------------	----------	---

津久井あゆみ・大福幸帆

丹波市市民活動センター	ゲストスピーカー	丹波市市民プラザ交流会
-------------	----------	-------------

活動計算書（簡易版） 2023年4月1日から2024年3月31日まで

（円）

	科 目	2023年度実績	2022年度実績	増 減
経常増減額	受取会費	331,000	365,000	△34,000
	受取寄付金	291,784	396,241	△104,457
	受取助成金等	62,491,353	64,791,947	△2,300,594
	事業収益			
	受託料収益	26,896,000	36,477,600	△9,581,600
	利用料収益	16,793,411	17,555,172	△761,761
	自主事業収益	16,013,386	4,773,195	11,240,191
	事業収益計	59,702,797	58,805,967	896,830
	その他収益計	974,846	817,498	157,348
	A 経常収益計	123,791,780	125,176,653	△1,384,873
	事業費			
	(1) 人件費	77,800,617	72,715,670	5,084,947
	(2) その他経費	33,383,321	32,252,685	1,130,636
	事業費計	111,183,938	104,968,355	6,215,583
経常外増減額	管理費			
	(1) 人件費	6,463,264	4,554,932	1,908,332
	(2) その他経費	2,853,120	3,490,868	△637,748
	管理費計	9,316,384	8,045,800	1,270,584
	B 経常費用計	120,500,322	113,014,155	7,486,167
	E 当期経常増減額(A-B)	3,291,458	12,162,498	△8,871,040
正味財産増減	過年度損益修正益	21	869,290	△869,269
	C 経常外収益計	21	869,290	△869,269
	雑損失	705	0	705
	過年度損益修正損	1,868	526,135	△524,267
	D 経常外費用計	2,573	526,135	△523,562
	F 当期経常外増減額(C-D)	△ 2,552	343,155	△345,707
正味財産増減	G 税引前当期正味財産増減額(E+F)	3,288,906	12,505,653	△9,216,747
	H 法人税、住民税及び事業税	82,000	82,000	0
	当期正味財産増減額(G-H)	3,206,906	12,423,653	△9,216,747
	前期繰越正味財産額	42,010,539	29,586,886	12,423,653
	次期繰越正味財産額	45,217,445	42,010,539	3,206,906

貸借対照表（簡易版） 2024年3月31日現在

（円）

（円）

	科 目	2023年度実績		科 目	2023年度実績
I 資産の部	1 流動資産		II 負債の部	1 流動負債	
	小口現金	525,837		未払金	10,358,582
	普通預金	39,327,058		前受金	1,130,140
	定期預金	0		預り金	26,000
	未収金	4,778,750		未払法人税等	82,000
	前払金	74,880		未払消費税等	1,206,700
	流動資産合計	44,706,525		流動負債合計	12,803,422
	2 固定資産			2 固定負債	
	有形固定資産	49,251,962		固定負債合計	36,022,000
	投資その他の資産	84,380	III 正味財産の部	負債合計	48,825,422
I 資産の部	固定資産合計	49,336,342		正味財産期首残高	42,010,539
	資産合計	94,042,867		当期正味財産増減額	3,206,906
				正味財産合計	45,217,445
				負債及び正味財産合計	94,042,867

2024年度事業計画

2023 年度も多くのみなさまの支えのおかげで無事に事業年度を終えることができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。さて、当法人では、市民や参加者の内から沸き起こる「たのしい」という主体的な思いを入りに「一緒につくる」という参加のプロセスを設計し、多様な主体が「まざりあう」場を、さまざまな場面でつくっています。「わけない」ことによって生み出される力は、協働の先に新たな可能性や価値を創造していきます。コミュニティ（属性や領域など）をつなぎ、新しいコミュニティ（ネットワーク・つながり）をつくっていく、**コミュニティ・コーディネート**は、今の時代、どのような現場・職場であっても必要になってくるスキルになってきています。次の 10 年はいよいよ「まち」にもその役割と価値を広げていくステージへと進んでいきたいと考えています。新たなつながりが増え、つながりをたのしめる人が増えていく、そんな東播磨を目指していきたいと考えています。その第一歩となる 2024 年度は、まずはこれまで当法人が培ってきたことを改めて**整理し、可視化**していくことから始めていきます。当法人の役割を「コーディネート」に軸足をおいたとき、どのような整理ができるのか、どのような発信ができるのか、法人一丸となって取り組んでいきます。

2024年度の重点的な取り組み

コーディネートの価値を広げる

2023 年度からまちのコーディネーターの役割として、「かこむ」での場づくりだけでなく「まち」への広がりをつくるタイミングと捉えています。場づくりからまちづくりへ、次のステージに挑戦してきました。16 年にわたり培ってきた「かこむ」ならではのつながりの意味を捉え直し、今年度は、これまでの「市民参加」と「つながる拠点」というコーディネートの価値を、様々な分野に広げていくことに力点を置いた事業展開を行います。機関紙「HINTO」や「かこむ」WEB サイトのリニューアルによってコーディネート拠点の意義や価値を発信していくとともに、主催事業によってその役割を地域に広めていくことを目指します。東播磨の地域協働を促進する企画「東播磨未来 100 人会議」を予定しています。東播磨地域につながることに先にある協働によるプロジェクトが多数生まれる場づくりに取り組みます。

自主事業の整理と実現できる体制の整備

2023 年度から取り組んできた市民参加型まちづくり支援事業をはじめ、企業等へのコーディネート事業等、「かこむ」を中心に研鑽を積んできたまちのコーディネーターとしての様々なスキルを整理し、メニュー化していくことで、新たな自主事業の柱として確立させていくことを目指します。法人全体としてコーディネート機能を充実させ、地域にその価値を広げていくことに軸足をおくことで東播磨地域のコーディネート業務に注力できる体制を整えます。NPO 等組織への支援や地域自治組織への支援といった地方への中間支援事業は、依頼に応じて理事を派遣する体制で支援を継続します。

まち保育のまちへの展開

「まちで子どもを育てる」まち保育を実践してきた「かわのまちほいくえん」も 4 年目を迎えます。この3年で多くのまちの先生が子どもたちの育ちに関わってくれ、保育者も子どもたちもまちの資源とのさまざまな接点を持ち、まちで子どもたちが育っていくことはこの園にとっては当たり前前の風景になっています。ここからは、子どもの育ちを起点にさまざまなまちの人同士もつながっていくような、「まちが育つ」というまち保育の次のステージを意識しながら、「まち」に向けた取り組みを強化していきます。園児だけでなく、園児もまちの子どももまちの人も一緒になって遊び学べる活動や保育チームだけでなく給食チームもまちに出ていく、まちとつながっていく取り組みなど、ここでも「コーディネート」は全員の共通キーワード・スキルとして次の展開を進めていきます。

1 まちづくり部門

市民参加型公共施設運営事業
市民参加型まちづくり支援事業
企業等へのコーディネート事業
学校連携事業
各種講師・ファシリテーター派遣

2 まちまなび部門

かわのまちほいくえん運営事業
インターンシップの受け入れ事業
講師・ファシリテーター派遣

3 コンサルティング部門

NPO・地域伴走支援事業
ひょうご市民活動協議会事務局事業
講師・ファシリテーター・アドバイザー派遣

4 シーズのジリツ（管理部門）

総務体制の強化と整備
「機関誌たのたね」の発行



シミズシーズ 2023 度年次報告書

発行元／問い合わせ先

NPO法人 **シミズシーズ**

〒675-0066 兵庫県加古川市加古川町寺家町 363-4

Tel : 079-422-0402 Fax : 079-421-0407 Mail : info@npo-seeds.jp Web : www.npo-seeds.jp